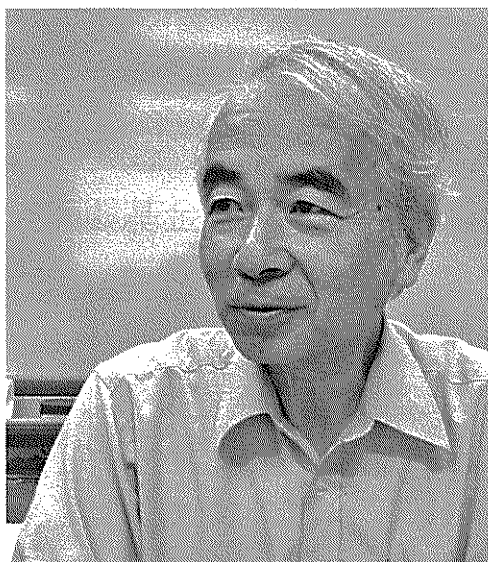


# 建築取り巻く関係をデザイン

京都大学大学院  
工学研究科

もんじゃないてるゆき  
門内輝行教授に聞く



### 【略歴】

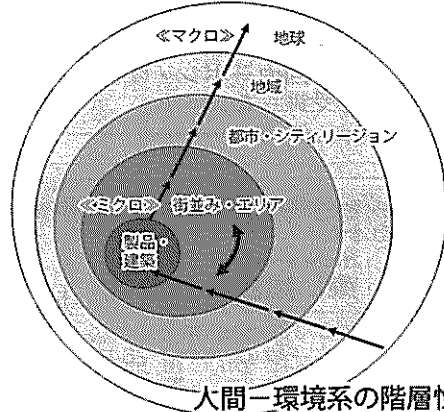
東京大学大学院工学系研究科建築学専門修士過程修了。2004年から京都大学大学院工学研究科教授(建築学専攻)。専門分野は建築・都市記号論、建築環境計画学など。博士(工学)、一級建築士。日本建築学会賞(論文)を受賞。研究室でデザインに携わった「京都市立洛央小学校ブックワールドデザインプロジェクト」が8月、第9回キッズデザイン賞の子どもの未来デザイン感性・創造性部門で「優秀賞・経済産業大臣賞」を受賞した。岡山県出身、65歳。

「見ると、保存も再生も創造も撤去も、あるいは何もしないこともデザインの二つになる。デザインの概念が広がることも『人間-環境系のデザイン』の特徴だ」

「何もしないこともデザインの二つ。敷地を空き地のままにしておくことが、人の命や暮らしを豊かにするとしたら、何も建てないという選択もデザインをしたことになるのではないか。デザインという概念が建築を取り巻くさまざまな関係を『関係を作る』ことだというコンセプトが得られるようになる。関係性に配慮することが21世紀のデザイン。要素のデザインから関係のデザインへ移行変わってきている」

「環境行政の取り組みをどう感じているか。要素だけでなく関係まで、一つの建築だけでなく都市全体までを考えると、分野横断型の活動にならざるを得ない性質が必要な時代になっている。自分の利益だけを追求する形で資本の蓄積を図る行動パターンをあらため、ソーシャルな側面に貢献するのがサステイナブルな企業だ。環境は常に開いたシステムであり、ほかの企業との関係や行政との関係を構築するべきだ」

「官民の連携も課題の一つだ。PPP(Public Private Partnership)が面白い。民間の運営権売却が有名だが、道路や街路樹の管理を民間企業に包括的に委託する自治体が出てきたり、公道に設けられた花壇の管理を沿道住民に任せるとか、お金を掛けずに管理ができ、コミュニティづくりも進んだりする事例が出てきている。行政の仕事は、民間にとって大きなビジネスチャンスになり得る。さ



人間-環境系の階層性

建築やまちづくりは、地球規模で環境への配慮が求められ、地域レベルでも景観や歴史、文化に寄り添うことが必要になっている。さまざまな環境要因とどう向き合っていくか。京都市の美観風致審議会会長などを務める京都大学大学院工学研究科建築学専攻の門内輝行教授に環境への向き合い方などについて聞いた。

(聞き手は報道部 増田茂樹)

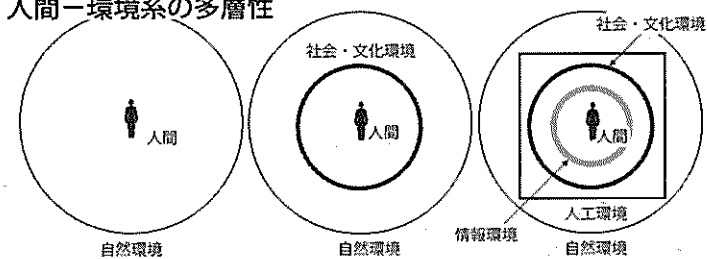
「建築やまちづくりは環境への配慮、自然との共生などどう向き合っていくのがさむい。素晴らしい建築には異なる環境との間にハーモニーがある。人工物でありながらどこかに自然の趣を宿し、人間とどう向き合っていくかを映して

「建築やまちづくりは環境への配慮、自然との共生などどう向き合っていくのがさむい。素晴らしい建築には異なる環境との間にハーモニーがある。人工物でありながらどこかに自然の趣を宿し、人間とどう向き合っていくかを映して

「環境行政の取り組みをどう感じているか。要素だけでなく関係まで、一つの建築だけでなく都市全体までを考えると、分野横断型の活動にならざるを得ない性質が必要な時代になっている。自分の利益だけを追求する形で資本の蓄積を図る行動パターンをあらため、ソーシャルな側面に貢献するのがサステイナブルな企業だ。環境は常に開いたシステムであり、ほかの企業との関係や行政との関係を構築するべきだ」

「民間企業はどうか。民間建築も社会性や公共性が重要な時代になっている。自分の利益だけを追求する形で資本の蓄積を図る行動パターンをあらため、ソーシャルな側面に貢献するのがサステイナブルな企業だ。環境は常に開いたシステムであり、ほかの企業との関係や行政との関係を構築するべきだ」

## 人間-環境系の多層性



# 想像力 環境への配慮生む

関係や、人工物と人間・環境との関係を適切に把握し設計することだと考えている。これを『人間-環境系のデザイン』と呼んでいる。自然環境や社会文化環境、構築環境(人工環境)、情報環境といったさまざまな環境の中で私

「民間企業はどうか。民間建築も社会性や公共性が重要な時代になっている。自分の利益だけを追求する形で資本の蓄積を図る行動パターンをあらため、ソーシャルな側面に貢献するのがサステイナブルな企業だ。環境は常に開いたシステムであり、ほかの企業との関係や行政との関係を構築するべきだ」

「民間企業はどうか。民間建築も社会性や公共性が重要な時代になっている。自分の利益だけを追求する形で資本の蓄積を図る行動パターンをあらため、ソーシャルな側面に貢献するのがサステイナブルな企業だ。環境は常に開いたシステムであり、ほかの企業との関係や行政との関係を構築するべきだ」